四、人員ノ変更ハ雇主ト協定ノ上其ノ都度定ムルコト

五、乗組員中ニ其他公務上必要ナル仕込ハ船主ニ於テ全額ヲ決定セス其ノ時ノ状況ニヨリ相当ノ手当ヲ支給ス

六、廻航ノ時ハ積荷先ヨリ手当ヲ得ル様雇主ニ於テ努ムルコト

七、船夫ノ積立テタル積立金ハ船夫ノ要求ニ應シ随時雇主ハ拂戻スモノトス

八、船夫ハ原則トシテ船住トス

但シ特ノ事情ニヨリ船住不可能ナル者ハ雇主ノ承認ヲ得ルコト

前項ノ場合ト雖モ夜間船附ハ務メテ怠ケサルコト

若シ止ムヲ得サル事情アル場合ハ[illegible]ノ代理出船ニ支障ヲ来サヽル様責任ヲ持ツコト

九、賃銀変更ノ時ハ船夫ニ対シ相当期間ヲ以テ予告スルコト

一〇、雇主ノ都合ニ依リ解雇トシテノ外船夫ガ不正行為又ハ刑事追訴ヲ受ケ犯罪罰令ニ觸レタル時ハ此限ニアラス

一一、本協定中第一項及第二項ハ昭和五年十月二十日ヲ以テ當事者雙方ニ於テ再ヒ協議スルコト

一二、雇主ハ船夫ニ対シ慰労金トシテ金一封ヲ贈呈ス（内容金五十円）

右覚書作成候也

昭和五年八月九日

大部屋運送代表 飯田義一郎代理 後藤和吉
〃 船夫代表 中尾清一郎
東京船夫組合代表 後藤 勘
東京艀回漕業組合長代理
[illegible] 書記長 平坂貞忠

5.8.16
1544

勞秘第二六八八號
昭和五年八月十三日

警視總監 丸山鶴吉

內務大臣 安達謙藏殿
社會局長官殿
神奈川縣知事 山縣治郎殿

南北回漕店労働争議ニ関スル件（第三報解決）

要旨＝本月九日東京艀回漕業組合幹事長馬場伊之助ノ斡旋ニヨリ圓満解決セリ

既報標記争議ハ前報後事業主ハ争議不参加船夫ヲ統制シ結束ヲ固メ争議團ト対抗シ營業ヲ継續シ居リテ頑トシテ争議團ノ要求ヲ容レス持久戦ニアリ一方争議團ニアリテハ各自妻子ヲ歸國セシメ争議費用ノ緊縮ヲ計リ飽迄目的貫徹スル迄強硬ニ抗争スヘシト稱シ其間再三事業主ト交渉ヲ重ネ要求獲得ニ奔走セルカ事